

学校名: 中央区立日本橋小学校 所在地: 中央区日本橋人形町1-1-17  
 校長名: 福留正也  
 所在地: 中央区日本橋人形町1-1-17  
 児童(生徒)数 365名 学級数 12学級 教員数 18名 職員数31名

## 1 重点目標の達成状況及び取組状況

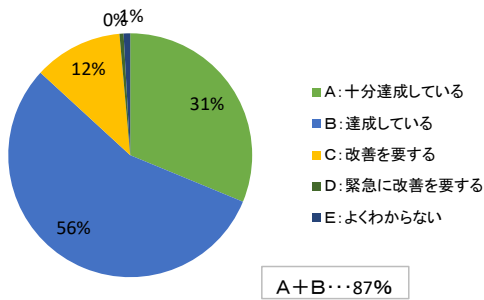
### 重点目標1 きまりを守り、礼儀正しく思いやりのある子どもを育てる

評価項目 「すすんであいさつをする」「時間を守る」「よさを認め、伝え合う」

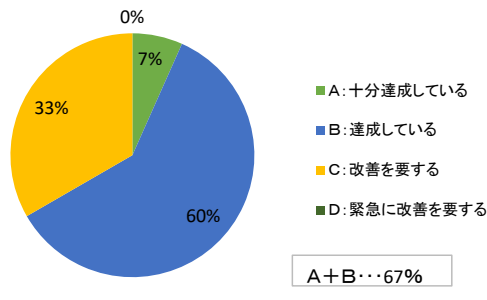
評価指標

- ・「相手や場に応じた気持ちのよい挨拶、会釈ができる」など礼儀正しさが身に付いている。
- ・時間を守って自分から行動するなど、社会の一員としてのルールやマナーが守られている。
- ・相手のよさを認め、伝え合い、励まし合うことができている。

重点目標1 達成率(保護者)



重点目標1 達成率(教員)



今年度も重点としていた、相手や場に応じた挨拶や会釈ができる児童の育成という点では、高学年を中心に意識、行動化できている児童が増えてきた。6年生を中心として挨拶運動にも取り組んだ成果である。(児童アンケートでも「あいさつはすすんで元気よくしていますか」の問いには83%の児童がAまたはBと回答している)教員間では全体的に一層の向上を図っていきたくと考えており、次年度も引き続き、最重要事項として、指導に当たっていく。

児童アンケートにおける「チャイムの合図や時間を守って行動することができましたか」という項目では89%の児童がAまたはBと回答している。当然のことではあるが教員も学習ルールを守り、学習を進めることに努め、学習規律を守ることへの意識を今後も更に高めていく。

### 重点目標2 自分の考えをもち、主体的に学び続ける子どもを育てる

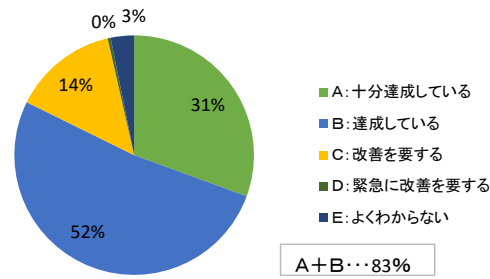
評価項目

「自分の考えをもつ」「相手の考えを受け入れる」「自分の考えを深め、広げる」

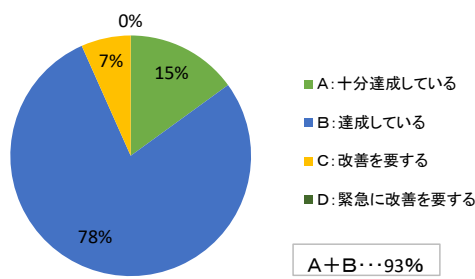
評価指標

- ・自分の考えをもって、学習に取り組んでいる。・相手の考えを受け入れることができている。
- ・話し合いにより、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
- ・家庭学習【学年×10分】に毎日取り組むなど、学習習慣が身に付いている。

重点目標2 達成率(保護者)



重点目標2 達成率(教員)



今年度は、校内研究の主題を「自分も人も大切にできる児童の育成～自分の思いや考えを伝え合う活動を通して」として、研究に取り組んだ。人権教育の視点も取り入れ、各教科での学び合いを通して自己肯定感を高め、他者理解できる児童の育成を目指し研究を進めた。1単位時間ごとの自分がやるべきことが分かり、自分の考えをもち、話し合いを通してその考えを深め、自主的に学習を進められるようになってきた。児童アンケートにおける「話し合いにより、考えを深めたり、広げたりすることができたか」という項目では82%の児童がAまたはBと回答している。

ペア学習やグループ学習、学級全体で互いの考えを伝えたり、話し合ったりして交流することが、自分の考えに自信をもったり、より深めたり、自分にはなかった見方や考え方に触れ、考えを広げ豊かに表現することにつながっている。

### 重点目標3 明るく、心身ともに健康な子どもを育てる

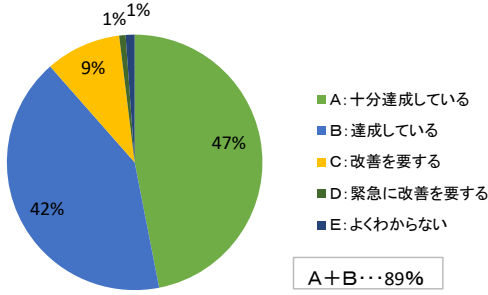
評価項目

「すすんで体を動かす」「食の大切さに気付く」「食に感謝する心をもつ」

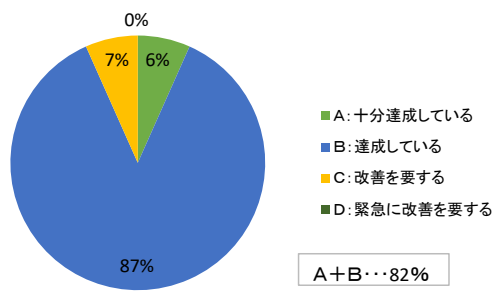
評価指標(成果及び取り組みの状況)

- ・進んで体を動かし、運動の楽しさを味わうとともに、体力を向上させることができている。
- ・食の大切さに気付く、食べ物や食事を作ってくれる人に感謝する心をもつことができている。

### 重点目標3 達成率（保護者）



### 重点目標3 達成率（教員）



マイスクールスポーツの水泳では、夏季水泳指導期間に泳力向上指導日を設定し、実施したことで、中、高学年の児童の多くが進級することができた。同じく縄跳びでは、本校児童の重点課題でもある持久力育成を図り、短縄跳びの取り組みにも力を入れるため強化指導機関に各学年ごとの縄跳び練習を行うとともに、2月には各学年で縄跳び大会を実施した。また、最終的な進級状況を一元化し、教員間の情報の共有化と次年度への課題設定の目安とした。

食事のマナーの向上はもちろん、残滓を少なくするためにも給食準備の時間やモグモグタイム（会話をせずに食べる時間）の遵守など全校で取り組んだ。児童アンケートにおける「給食の時間のマナーは守られていますか」という項目では90%の児童がAまたはBと回答している。前年度より2%向上し、全校的に食を大切にすることをさらに改善されたことが分かる。

## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

児童アンケートでは、重点目標を除く全てのアンケート項目における「A: 十分達成している」「B: 達成している」で回答している児童が平均で約83%（重点目標の項目の平均も87%）。特に、「授業の内容はよくわかりますか」「みんなで使うものは大切にしていますか」「学校の行事は充実していましたか」という質問項目では93、95、92%と高い評価が出ており、概ね学校生活に満足していると捉えられる状況である。そんな中、「先生に学校や家での出来事などを話したり、相談したりしていますか」という項目では49%という数値であった。今後は、児童の感情に寄り添いながら、児童の自己肯定感を高めたいけるよう、児童のよさや努力している様子を児童が互いに見付けられるような学究経営、学習活動を工夫できるよう教職員全体の意識、行動力を高めていく。

保護者アンケートでは、重点目標を除くほとんどのアンケート項目で90%を越える保護者の方々が「A: 十分達成している」「B: 達成している」と回答、高い評価を得ることができた。（平均92%、重点目標の項目の平均は86%）。今後の課題としては、「学校は児童の問題や悩みに対し、適切に相談にのったり指導したりしている」という質問項目が85%と前年度より3%下回ったので、スクールカウンセラーや関係諸機関とすばやく連携し、児童理解に努め、児童からの信頼を高めるために新たな関わり、環境を築いていく。

## 3 今後の改善・方策

【重点目標1】に対して

給食や掃除、休み時間の遵守や廊下歩行等、生活指導上の課題に対しては、生活指導主任を中心に指導の統一や情報共有を図り、指導の更なる徹底を図る。まずは、教師が率先して行動、手本を見せるとともに、さらには、代表委員会児童などが、休み時間、交代で呼びかけに立つなど取り組みを工夫していく。

また、支援を要する児童への対応については、校内委員会を週に1度開き、当該学級・学年担任、特別支援コーディネーター、養護教諭、管理職で現状把握、対応策を検討し、組織的に情報共有、対応にあたることできるようにする。

【重点目標2】に対して

来年度も引き続き、校内研究の主題を「自分も人も大切にする児童の育成～自分の思いや考えを伝え合う活動を通して」として、研究に取り組んでいく。人権教育の視点も取り入れ、各教科での学び合いを通して自己肯定感を高め、他者理解できる児童の育成を目指し研究を進めていく。

その中で、ペアやグループ、全体交流でのねらいを明確にするとともに、どのような場面でどのような方法で交流するのが効果的なのかなど、話し合いの形態を工夫していく。

学年や発達段階に応じた家庭学習に取り組むことができるよう、児童や保護者に内容例やよいノートを紹介したり、学び合いの時間を設けたりして家庭学習の習慣化を図る。

【重点目標3】に対して

来年度の夏季水泳教室は、15回の実施を予定している。また、後期の2回の対象を全学年6級（青1）以下の児童に絞り、級別に集中的に指導し、泳力の向上、底上げを図る。

短縄跳びの取り組みの充実に向け、児童の意欲、技能、持久力の向上につながるよう、今年度の反省をもとに、朝の時間の縄跳び練習、大会の実施内容、方法を検討、改善していく。

【その他】

- ・児童の体力向上を図り、外遊びの機会を拡張するために、休み時間および体育の時間などで、校庭、体育館のほか屋上のスカイコートも有効に活用していく。
- ・人権尊重教育推進校としての姿、努力が具体的な形で見えづらかったので、児童の姿で学校の取り組みが見えるよう工夫を重ねる。